

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	骨折実技（上肢2）	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	教科書（柔道整復理論編・実技編 一般社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	後藤 晃弘	実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的					
近年、接骨院等で骨折の患者が来院してくることが少なくなっているのが現状である。ただ、骨折の患者が来院した際に、正しい評価、正しい整復、正しい固定を行わなければならない。それには、骨折をしっかりと評価することが大事である。つまり、この科目を受講する学生は、柔道整復師の業務である上肢の骨折の症状や発生機序を理解し、整復法を習得することができる。また、合併症や後遺症など危険性を理解できるようになることがねらいである。					
到達目標					
上肢の骨折の理解や整復操作を探究する力を身につけるために、まず、どのように怪我をしたのかという発生機序や視診、触診や検査によって身体がどのような状態になっているのかという症状を理解すること、次にどのようにしたら骨が戻ってくるか、筋肉を弛緩させるにはどのような整復操作をするのかを理解する必要があること、最後にリスクと呼ばれる合併症や経過が上手くいかなかったなどした際の残ってしまった後遺症など理解することを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	上肢骨折とは柔道整復師の行う業務範囲の中に含まれ、症状や骨折の仕組みや因子まで細かい部分を学び、実践できる学問である。上肢の骨折に関する基礎知識から固定材料の基礎知識を学び、基本的な骨折の視診や触診といった評価から骨をつなぐといった技術を習得する。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	0%				
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	舟状骨骨折(1)	舟状骨骨折の発生機序、分類、症状を理解する。			
2回	舟状骨骨折(2)	舟状骨骨折の症状、合併症、整復操作を理解する。			
3回	舟状骨骨折(3)	舟状骨骨折の難治の理由、骨片の血行についてを理解する。			
4回	その他の手根骨骨折(1)	月状骨、三角骨、豆状骨、大菱形骨骨折について理解する。			
5回	その他の手根骨骨折(2)	小菱形骨、有頭骨、有鉤骨・体部骨折について理解する。			
6回	中手骨骨折(1)	中手骨頭部、頸部骨折について理解する。			
7回	中手骨骨折(2)	中手骨骨幹部骨折について理解する。			
8回	振り返り(1)	1回～7回までの振り返り			
9回	中手骨骨折(3)	ペネット骨折、逆ペネット骨折について理解する。			
10回	基節骨骨折	基節骨骨幹部、基底部骨折について理解する。			
11回	中節骨骨折	中節骨頸部、骨幹部骨折、掌側板付着部骨折について理解する。			
12回	末節骨骨折	末節骨骨折やマレットフィンガーについて理解する。			
13回	胸骨骨折	胸骨骨折の好発部位や症状、分類や転位などを理解する。			
14回	肋骨骨折	肋骨骨折の発生機序、好発部位、症状を理解する。			
15回	振り返り(2)	9回～14回までの振り返り			